

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：32606

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06579

研究課題名（和文）『うつほ物語』における国学者の学問の研究 板本の書入から未詳語彙を解明する

研究課題名（英文）Studies by the scholars of ancient Japanese thoughts and culture in Utsuho monogatari: To solve the unidentified vocabulary through the written notes on the woodblock printings.

研究代表者

武藤 那賀子 (MUTO, NAGAKO)

学習院大学・付置研究所・研究員

研究者番号：40759495

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：報告者は、前田家本を底本としている『うつほ物語』に多数ある未詳語彙の解釈をするために、『うつほ物語』三十冊板本の各丁の最初の数文字を翻字した一覧を作成し、どの機関が所蔵している本のどの丁に書入れがあるかをわかるようにした。未詳語彙の解釈は論文にまとめ、報告する予定である。これまで指摘されてこなかった本居宣長門下の学派についての指摘と、当該本の書入れの分類については、2016年9月に他大学での研究会において報告した。書入れられた記号については、その解読を行なった。この結果は、2017年5月に中古文学会春季大会で発表した。

研究成果の概要（英文）：In order to understand the unidentified vocabulary in Utsuho monogatari based on the Maeda family's version, I made a list reprinting the first characters of each page of the thirty-volume set, and showed the pages having the written notes in the woodblock printings possessed by each institution. The interpretation about the unidentified vocabulary will be made public through a thesis. Meanwhile, at the meeting held in the Notre Dame Seishin University in September 2016, my study clarified the classification of the notes and one of the schools under Motoori Norinaga which had not been pointed out. Then, the result of the decipherment of the written symbols in the pages was presented at the conference of the Association for the Study of Japanese Heian Literature in May 2017.

研究分野：日本文学

キーワード：日本文学 書誌学 うつほ物語 版本 未詳語彙

1. 研究開始当初の背景

『うつほ物語』は、本文に大きな問題を抱える作品である。これまでも多数の注釈書があったが(注1)、いずれも大幅な校訂を必要としており、底本のままでは到底読めない箇所が多い。大幅に校訂された本文であるにもかかわらず、『うつほ物語』には、それでもなお意味の通らない語が散在する。これら未詳語彙を解釈することは難しく、『うつほ物語』を論じる際に問題となる。

延宝五年に刊行された『うつほ物語』三十冊本(以下、『うつほ物語』板本とする)は、今日ではほとんど読まれていない(注2)。この本は、【表1】に示したように、現行で読まれている『うつほ物語』とは巻順が大きく違い、巻名と内容が一致しないものがあるという問題を抱えている。

【表1】延宝五年開板『うつほ物語』三十冊本とおうふう『うつほ物語』の巻順の比較

延宝五年開板	現行の巻名	実録の内容	本行(おうふう)
第一巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第三巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第四巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第五巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第六巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第七巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第八巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第九巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十一巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十二巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十三巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十四巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十五巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十六巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十七巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十八巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第十九巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十一巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十二巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十三巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十四巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十五巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十六巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十七巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十八巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第二十九巻	延宝五年	延宝五年	巻名
第三十巻	延宝五年	延宝五年	巻名

このような状況にもかかわらず、『うつほ物語』板本は数多く出回っていたらしく、現在でも多数の機関が所蔵している(注3)。さらに、その半数近くに書入れがあり、その内容から、近世末期の国学者たち、特に、本居宣長門下の人々が熱心に『うつほ物語』板本を読んでいたことがわかっている(注4)。

本研究は、近世末期の国学者たちが『うつほ物語』板本をどのように読み、注釈をつけたのかを探り、それを現行で読まれている『うつほ物語』(注5)の解釈に応用するとともに、近世末期の国学者たちの学派を探ることを目的とする。

これまでに『うつほ物語』板本の研究はほとんど行なわれていない(注6)。また、近世末期の国学者たちの研究の成果を活かした研究もない。このため、まずは現在残っている板本において、書入れの箇所を確認した上でその内容を比較する必要がある。申請者は、2014年11月末に国文学研究資料館で行なわれた国際日本文学研究集会において、出身研究室の下級生である富澤萌未氏(現在、学習院大学大学院博士後期課程在学。専門は『うつほ物語』)とともに、『うつほ物語』板本の書入れの系統が、大きく分けて、『うつほ物語』板本三十冊のうち特定の五冊のみに

注をつける田中道麿の書入れを書写するものと、全冊に注をつける村田春海の書入れを書写するものの二つにあること、また、『うつほ物語』板本の注釈の師弟関係は、広く知られている本居宣長学派の師弟関係とは別であることをつきとめた(注7)。そもそも、この発表自体が、現行で読まれている『うつほ物語』の未詳語彙を解説するべく、2012年から始めた勉強会の経過報告であった。しかし、書入れの内容を整理し、把握しなければ、未詳語彙の解明には至らない。本研究は、2014年の口頭発表を発展させようとするものである。

注

- 1) 『うつほ物語』の注釈書は九本あるが、このうちの何冊かは絶版になっている。
- 2) 『うつほ物語』三十冊板本は底本が不明である。
- 3) 申請時に確認していたのは以下の通り。
 - a 学習院大学日本語日本文学蔵『宇津保物語三〇巻』(請求番号913.34/5002)
 - b 学習院大学日本語日本文学蔵『宇津保物語三〇巻』(請求番号913.34/5001)
 - c 国会図書館蔵『宇津保物語三〇巻』(請求番号は17)
 - d 国会図書館蔵『宇津保物語三〇巻』(請求番号830-107)
 - e 国会図書館蔵『うつほ物語』としかげ二巻(請求番号WA7-216)
 - f 斯道文庫蔵『宇津保物語三〇冊』(請求番号八09-1b-1-30)
 - g 斯道文庫蔵『宇津保物語三〇冊』(請求番号B1-ヒ1-30)
 - h 国文学研究資料館蔵『うつほ物語三〇冊』(請求番号サ4-91-9)
 - i 白百合女子大学図書館蔵『宇都ほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号78-76-18)
 - j 多和文庫蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号271-330-2)
 - k 刈谷中央図書館(村上文庫)蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号30-3-1)
 - l 刈谷中央図書館(村上文庫)蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号30-157-1)
 - m 本居宣長記念館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号37-6-4)
 - n 筑波大学図書館蔵『宇津保物語三〇冊』(請求番号ル120)
 - o 早稲田大学蔵『うつほ物語』(請求番号へ12 04327)
- ・ 愛知県立大学附属図書館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号98-305-124)
- ・ 東京都立中央図書館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号06-270-25)
- ・ 大和文華館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号257-219-2)

- ・盛岡市中央公民館蔵『空穂物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 281-332-1)
 - ・大阪女子大学図書館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 244-11-2)
 - ・大英図書館蔵『うたほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 213-7-1)
 - ・今治市河野美術館蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 73-49-2)
 - ・新潟大学附属図書館(佐野文庫)蔵『宇津保物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 324-5-2)
 - ・陽明文庫蔵『うつほ物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 55-265-1)
 - ・東洋文庫蔵『宇都本物語三〇冊』(国文学研究資料館請求番号 3Ad6/E4066)
- 4) (口頭発表) 『うつほ物語』と近世国学者 文化三年補刻『うつほ物語』絵入版本の書き込みから 武藤那賀子、富澤萌未、第 38 回国際日本文学研究集会(ショートセッション)、2014 年 11 月
- 5) 主に、室城秀之『うつほ物語 全改訂版』(おうふう、2001 年)を指す。
- 6) 大沼晴暉『慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 浜野文庫目録 附善本略解題』(汲古書院、二〇一一年) 宇津保物語研究会編『宇津保物語新論』(古典文庫、1958 年)
- 7) (注 4) に同じ。

2. 研究の目的

本研究は、『うつほ物語』三十冊板本の書入れを調べることにより、以下の三点を明確にするものである。

- ・現行で多く読まれている『うつほ物語』に多数ある未詳語彙を解釈すること
- ・これまで指摘されてこなかった本居宣長門下の学派があること
- ・『うつほ物語』三十冊板本の書入れを分類すること

上記した三点が明確になることにより、『うつほ物語』の読みが広がるだけでなく、近世末期の国学者についても新たな知見が得られ、さらに、各機関が所蔵する『うつほ物語』三十冊板本の位置づけもできると考えている。

3. 研究の方法

本研究は、以下の手順を踏んだ。

現存する書入れのある『うつほ物語』板本の把握と、書入れ箇所を整理。

「凡例」の書入れの翻字及び整理。

前後関係の分かる資料 学習院大学本と早稲田大学本、慶應義塾大学斯道文庫本と国会図書館本の注を比較・検討し、田中道麿の注の受け継がれ方を見る。

翻字した注と現行で読まれている『うつほ

物語』の未詳語彙を照合し、未詳語彙の解釈に努める。

4. 研究成果

本研究の目的は、

1. 現行で多く読まれている『うつほ物語』に多数ある未詳語彙を解釈すること
2. これまで指摘されてこなかった、本居宣長門下の学派についての指摘をすること
3. 『うつほ物語』三十冊板本の書入れを分類すること

の3つである。報告者は、まず、未詳語彙の解釈をするために、『うつほ物語』三十冊板本の全丁(1200余丁)の最初の数文字を翻字した一覧を作成し、どの丁に書き入れがあるかをまとめた。この結果は、数年のうちにネット上で公開する予定である。現在、ネット上で公開されている『うつほ物語』三十冊板本の画像は、丁数が非常に見えにくく、画像を見ただけでは、丁数を特定することができない。しかし、報告者が作成した一覧表を用いることにより、丁数を確定することができる。また、この一覧表には、どの機関が所蔵している『うつほ物語』三十冊板本のどの丁に書入れがあるかがわかるようになる。これにより、書き入れの有無を都度調べる必要がなくなるため、より多くの所蔵機関が所蔵する『うつほ物語』三十冊板本を調べることができる。これにより、これまであまり顧みられてこなかった国学者たちの研究の跡を辿ることができ、『うつほ物語』研究そのものもより深みが増すものと思われる。さらに、『うつほ物語』三十冊板本の書入れそのものの読解および研究が進むことが期待できる。未詳語彙の解釈は、近年中に論文にまとめ、報告する予定である。これまで指摘されてこなかった本居宣長門下の学派についての指摘と、『うつほ物語』三十冊板本の書入れの分類については、2016年9月にノートルダム清心女子大学での研究会(宇津保愚見の会)において報告した。書入れられた文字の中で読解困難な記号については、その解読を行なった。この結果は、2017年5月に開催される中古文学会春季大会で発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

武藤那賀子、うつほ物語 絵入版本、ミュージアム・レター、vol.32、2016年、p.2

[学会発表](計1件)

武藤那賀子、近世版本の書き入れの整理と読解 『うつほ物語』三十冊整版本を基に、

中古文学会春季大会、東京女子大学、2017年
5月

〔図書〕(計1件)

武藤那賀子、うつほ物語論 物語文学と
「書くこと」、笠間書院、2017年、全292頁

〔その他〕

ホームページ作成中。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武藤 那賀子 (MUTO, Nagako)

学習院大学・国際研究教育機構・PD 共同研
究員

研究者番号：40759495